

特別支援学校(知的障害)における交通安全教育の実態調査

～ 交通安全学習による全国調査からわかること ～

○吉岡 学 竹川 久美子

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

KEYWORD : 知的障害、交通安全教育

(目的)

地域社会において障害者が他の人々と共生可能な社会実現の目的とした障害者総合支援法が2013年に施行された。これらによって、身体障害に限らない障害者である知的障害児・者の地域生活移行に関する社会環境整備がクローズアップされるようになってきた。そこで、自立した日常生活や社会生活移行への支援を推進するためには、知的障害児・者の「移動」に関する学校教育について把握する必要がある。しかしながら、未だ知的障害児・者に対する交通安全教育の実態や効果的な教育方法は明らかにされておらず、学校現場では、その種の情報を渴望しているという現状がある。そこで本研究では、特別支援学校(知的障害)における交通安全教育について全国調査を行い、交通安全教育の現状及び特徴、課題点を明らかにすることを目的とした。

(方法)

全国特別支援学校(知的障害領域)442校(重複障害による学校、分校及び分教室は除く)を対象に郵送による交通安全教育に関する質問紙調査を実施した。調査実施期間は2016年9月1日から10月30日の期間とした。

(結果)

調査票の総配布校数は442校、回収数345校となり回収率は78.1%であった。以下は各項目の調査結果を示す。

(1)交通安全教育の実態について

交通安全教育の実施の有無を調査したところFig.1のような結果となった。交通安全教育の実施率は96.8%と高い値を示した。

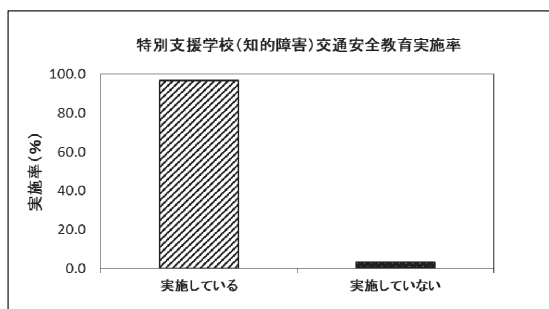


Fig.1 交通安全教育の実施状況について

(2)交通安全教育を主に取り扱う時間

交通安全教育を主に取り扱う時間について調査をおこなった。その結果、Fig.2のような結果を示した。いずれの学部とも「学校行事」の時間を使った交通安全教育が一番多い事が明らかになった。また、次に「生活単元学習」を使った交通安全教育が多いことが明らかになった。

回答項目	小学部	中学部	高等部
	(%)	(%)	(%)
学校行事	41.7	43.5	37.7
生活単元学習	26.7	22.3	16.5
実施しない	8.7	8.7	15.1
特別活動	7.8	8.4	11.6
学級活動	7.5	8.4	10.4
日常生活の指導	4.9	5.2	5.5
課外活動	2.0	2.9	2.0
遊びの指導	0.6	0.3	0.9
作業学習	0.0	0.3	0.3

Fig.2 主に取り扱う時間

(3)交通安全教育の実施形態

交通安全教育の実施形態として「実技指導」が最も多く行われていることが明らかになった。続いて、「ビデオ・紙芝居・人形劇」、「講話・講演」等を用いた指導も行なわれていることが明らかになった。

回答項目	小学部	中学部	高等部
	(%)	(%)	(%)
実技指導	80.2	79.0	74.0
実験・スタント	4.5	6.6	8.3
通学路の視察	8.4	14.7	23.5
ビデオ・紙芝居・人形劇等	48.0	45.8	46.0
グッズの配布	5.7	4.8	6.3
講話・講演	33.6	41.3	54.9
クイズ・テスト	14.4	22.8	24.8
グループ討論・グループワーク	0.6	0.9	3.5
その他の実施形態	2.7	3.0	4.8

Fig.3 実施形態について

(4)交通安全教育実施上の課題

課題として「指導時間がとりにくい」、「教材・教具や資料が不足している」、「発達段階に応じた交通安全教育の実施内容がわからない」の順に多いことが明らかになった。

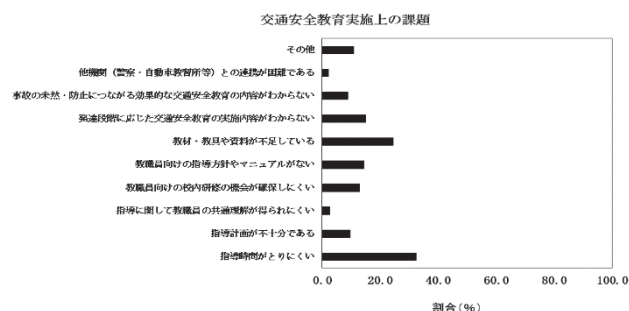


Fig.4 実施上の課題

(考察)

特別支援学校(知的障害)における交通安全教育の現状及び特徴、課題点は以下のことが明らかになった。

交通安全教育は教科化されておらず、学校行事等の時間で限定的に行なわれており、どの学年も実技指導が多く利用されている。また、それに対応した「教材・教具の不足」「効果的な指導法がわからない」などが学校現場である課題と言える。

なお、本研究は財団法人交通エコロジー・モビリティ研究助成により行われた。